

全国建設研究・交流集会の報告
いのちと安全を守る地域建設業の発展にむけて、昨年12月に3年ぶりに開催。中小企業と日本経済、資材高騰と工務店への影響など、建設政策研究所による寄稿です。
(関連記事3面)

けんせつ

東京土建のホームページ <http://www.tokyo-doken.or.jp/>

東京都新宿区北新宿1-8-16
東京土建一般労働組合
電話03 (5332) 3971 (代表)
FAX03 (5332) 3972
発行人・編集人
吉川 豊

印刷部数10万8200部
(購読料は組合費のなかに含まれています)
(年間購読料 千八百円) 定価 五十円

建設 被害者にも加害者にもならない

アスベスト



チラシ配布を呼びかける川口敏彦労働対策部長（中央左）、後藤英雄仕事対策部長（同右）、唐澤一喜労働対策専従常任（左端）栗橋宏仕事対策専従常任（右端）

企業の責任逃れ許さない

一人目安5枚のチラシ配布を

アスベスト問題周知チラシ55万枚の全戸配布が提起されています。建設アスベスト訴訟において解決の引き延ばしをはかる建材メーカーの無責任な態度が、住民の命や財産をも脅かしていることを伝え、理解と連帯を呼びかけるものです。

国は建設アスベスト最高裁判決を受け、原告のアスベスト被害者に謝罪し、それ以外の被害者には「給付金」による解決を決定しました。一方、建材メーカーは、今なお責任を認めず、解決の引き延ばしを図っています。直接の加害者がこの事件を早期解決しない姿勢は許されません。組合

「組合は施工者とチラシは」

23春闘 「スト行使する構えで 賃上げなしに生活できない」

2023年の春闘勝利にむけて、なかのZEROホールにて1月24日に総決起集会が開かれました。主催は国民春闘共闘委員会と東京春闘共闘会議の両団体です。全体で6

20人、東京土建は23区の支部に参加を呼びかけました。主催者あいさつに立った東

して近隣住民や労働者へのアスベストばく露を防止して改修・解体作業を行なっていること」「工事助成制度の拡充と建材メーカーの費用負担を求めること」「建材メーカーは建設アスベスト被害に真摯に向き合い、謝罪と和解解決、基金参加を決定すること」を訴えるものです。

みんなの力で 追い詰めよう

行動提起は労働対策部と仕事対策部が連携したもので、支部・分会レベルの一斉行動としての配布を呼びかけています。川口部長は「メーカーは無責任の極みだ。みんなの力で追い詰めよう」と訴え、後藤部長は「地域に怖いアスベストの問題を知らせ、被害者にも加害者にもならない運動をひろげよう」と呼びかけています。ぜひ、配布行動への協力をお願いします。



チラシの片面（両面の内容、詳細はQRコードより）



「団結して賃上げを勝ち取ろう」職場からの発言では

厳寒の夜でしたが、午後8時半には終了となりました。

「たたかうだけじゃなくて、パージョンアップが必要だ。若手や新たな層を巻き込むような、業種を越えて労働者が連帯する工夫と、世論に訴える行動が求められている。」

「ストライキを行使する構えで臨む」（福祉保育労）との決意や「大手銀行の非正規労働者が団交で賃上げ勝ち取った。労働組合の出番だ」（東京地評青年協）などの報告がありました。東京土建からは渡辺義久副委員長が発言しました。まず「資材が2倍以上に高騰しているが、なかなか転嫁できない。今こそ賃金・単価の引き上げが求められている」と述べ、運動の成果として公契約条例の広がりについて触れた上で「アンボイス、大軍拡に反対して命とくらしを守る政治を実現しよう」と呼びかけると、会場は大きな拍手で応えました。

「たたかうだけじゃなくて、パージョンアップが必要だ。若手や新たな層を巻き込むような、業種を越えて労働者が連帯する工夫と、世論に訴える行動が求められている。」

■広いステージの壁いっぱい、広かった大画面とボツンと置かれたノートPC。椅子はもろろん、演台もない。ジーンズをはいた「プレゼンター」は手振りや交え、矢継ぎ早に大画面を切り替える。映し出される資料の内容は、一瞬過ぎてとても読めないが、大見出しと写真のイメージだけが残ればいいという意図、演出のように感じた。

これは、先日の中かのZEROでの春闘総決起集会での基調報告の様子だ。恐れずに言えば、IT企業の新商品発表のプレゼンのようだったが、それは誤解だ。その声は多数あるだろう。何しろPCの置かれた台は学校机だった。ただ、自ら呼びかけた「たたかう労働組合のパージョンアップ」の実践を示したと考えれば、印象深い報告だった。

■画面には、アメリカのストライキの様子が映し出され、もうくらしにくいと嘆くスターバックスの労働者の時給は2300円だった。実質賃金が下がり続け、物価が4%も上がっている今、5%ではとても足りない。平均10%の賃上げを実現しよう、と呼びかけられた。